

## 1月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

今月のテーマ：感染性胃腸炎について

新型コロナの第5波は急激な消失となりましたが、最近ではオミクロン株が南アフリカから世界へと広がりを見せております。日本も世界から邦人の帰国をはじめ、年度末、始めにかけて来訪者が増加します。このHUGだよりがお手元に届く頃には第6波が始まっているのではと危惧しています。一昨年来、新型コロナの流行と共に、手足口病、インフルエンザの流行がなく、この夏には季節外れのRSウイルス感染症が多く報告されて、小児科医を困らせています。

さて、感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの病原体によって引き起こされます。ウイルス感染による胃腸炎は毎年秋から冬にかけて流行します。

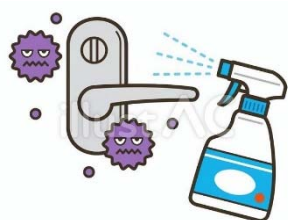
原因となるウイルスは、ノロウイルス、ロタウイルス、アストロウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどがあります。感染経路は、ウイルスが付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

症状は、ウイルスにより多少異なります。また、潜伏期間は1～3日程度です。ノロウイルスによる胃腸炎は吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛です。ロタウイルスでは、おう吐、下痢、発熱がみられ、乳児ではけいれんを起こすこともあります。感染しても発症しなかったり、軽いかぜのような症状の場合もあります。多くは5～6日で症状がとれます。

アストロウイルスによる胃腸炎は兵庫県で酢ガキを食べた集団感染が報告されています。このウイルスは乳幼児にも感染を起こしますが、水様性の下痢、おう吐、発熱などがありますが、ロタやノロに比べると症状は軽いようです。

特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法を行います。即ち、脱水症状に対する補液療法、おう吐、誤嚥による肺炎にたいする治療、予防、安静に努め、回復期には消化の良い食事を心がけましょう。

予防はトイレの後や、調理・食事の前には、石鹸と流水で十分に手洗しましょう。便やおう吐物の処理には、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを使い、処理後は石鹸と流水で十分に手洗いをしましょう。カキ等の二枚貝の調理には十分な加熱をしましょう。（調理温度は85℃以上で90秒以上、調理器具・食器の消毒はミルトン液、又は、家庭用漂白剤を希釈して使用しましょう）。



**家庭用漂白剤希釈方法：**トイレ・ドアノブ・汚物汚染部等は水1Lにペットボトルキャップ4杯（50倍希釈）、食器・調理器具には水1Lにペットボトルキャップ1杯（250倍希釈）等の希釈液で30分処理して、水洗いまたは水拭きをしましょう。